

要旨

【背景】

不育症専門外来では不育症女性に対して専門的なケアを提供しているが、その数は全国的に少なく、不育症の認知度は低い。不育症女性が不安や悩みを相談できる機会は少なく、不育症の存在を知らない看護職の不育症女性を理解していない発言により、不育症女性は心理的な“傷つき”を経験している。以上より、不育症専門外来以外の現場において、不育症女性に対して十分なケアが確立されていないといえる。

【目的】

不育症について知識やケア経験が少ない看護職が、不育症女性を包括的に理解し、ケアを提供する際に参考となる小冊子を開発することである。

【方法】

本研究は、小冊子案の作成と２段階評価に基づく小冊子案の洗練から、看護職が、不育症女性にケアを行う際に参考となる小冊子を作成する教材開発研究である。

小冊子案の作成では、教材企画書と小冊子案を作成した。教材企画書に基づき、文献検討を行い、小冊子案を作成した。

小冊子案の洗練では、第１段階として、専門医１名、助産師２名、臨床心理士１名、自助グループ会員１名による小冊子案の評価を行った。評価内容は、①教材企画書の各項目の妥当性、適切さ、②小冊子の学習目標達成、③小冊子の内容とした。評価方法は、評価項目に対する評価と、評価の低い場合には、コメントを記入する方法とした。評価結果に基づき、教材企画書と小冊子案を修正した。

第２段階として、臨床助産師１名、助産学生３名による評価を行った。評価内容は、①総合評価(学習目的達成)、②小冊子の学習目標達成、③小冊子の内容であり、評価方法は第１段階と同様とした。評価結果に基づき小冊子案を修正し、不育症ケア小冊子の完成とした。

【結果】

小冊子案の作成では、教材企画書にて小冊子のタイトル、対象集団、学習目的、学習目標を設定した。本小冊子の目標は、知識の習得と態度の変容に分かれた。知識の習得を目標とした小冊子内容は、文献検討を行い、文献から得られた内容を整理した。態度の変容を目標とした小冊子内容は、自助グループが実施したアンケート結果の引用と、研究者が架空の事例を作成した。

小冊子案の洗練の第1段階において評価が低かった項目は、「タイトルの適切さ」、「不育症の医学的背景における情報内容の適切さ」であった。寄せられた意見を基に修正した内容は、タイトルに死産・早期新生児死亡を追加、医療情報の提示方法の変更、不育症の定義を統一、事例で気を付けるポイントの追加などである。

第2段階の評価では、全ての質問項目において評価者の過半数が高い評価をつけていた。得られた意見を質的に分析した結果、「小冊子の修正点」、「小冊子に対する評価」、「評価者の認知・情意の変化」の3つに分類された。「小冊子の修正点」に基づき修正した内容は、エビデンスレベルについての説明の追加と、フォントの変更などである。その結果、「不育症ケア小冊子」が完成した。

【結論】

A5、15 ページ(表紙を除く)の「流産、死産、早期新生児死亡を繰り返す女性の理解と看護ケア～不育症ケア小冊子」を作成した。